

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宗像市立自由ヶ丘中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	0	16	27
生徒数	181	198	232	0	612	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育む教科学習の展開 - 考える力を高める教材開発と指導方法の工夫改善を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年 実施教科：国語、社会、数学、理科、英語 設定理由 確かな学力を育むためには、より多くの教科で研究を行う必要があり、全職員が学力向上を意識し、発達段階をふまえて取り組んでいきたいと考えたため。

(2) 年次ごとの計画

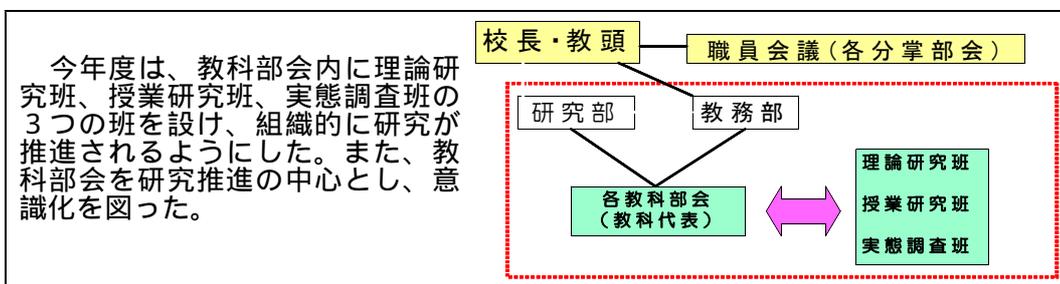
平成14年度	テーマ 確かな学力を育む教科学習の展開 - 考える力を高める教材開発と指導方法の工夫改善を通して - 研究の見通し(仮説) 国語、社会、数学、理科、英語の各教科において、次のような手だてを講ずれば、考える力が高まり、学力が向上するであろう。 1. 教科の本質からの教材の工夫。 2. 思考力、判断力を重視した単元構成の工夫。 3. 生きて働く知識、技能を図る小テストの実施。 研究の内容・方法 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>教材</td> <td>プラン1：考える力を高める指導内容の焦点化を図ります。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>プラン2：考える力を高める教材開発の条件を明らかにします。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">単元構成</td> <td>プラン3：考える力を高める学習問題づくりと基本的な学習過程を工夫します。</td> </tr> <tr> <td>プラン4：考える力を高める交流活動を工夫します。</td> </tr> <tr> <td>プラン5：考える力を高める学習形態を工夫します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>プラン6：日常的に「めあて」と「まとめ」のある指導を行います。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価</td> <td>プラン7：考える力を高める観点別学習状況の評価を工夫します。</td> </tr> <tr> <td>プラン8：日常的に学習の自己評価活動を工夫します。</td> </tr> </table> 主に考える力を高める教材開発の工夫、単元作りに取り組む。	教材	プラン1：考える力を高める指導内容の焦点化を図ります。		プラン2：考える力を高める教材開発の条件を明らかにします。	単元構成	プラン3：考える力を高める学習問題づくりと基本的な学習過程を工夫します。	プラン4：考える力を高める交流活動を工夫します。	プラン5：考える力を高める学習形態を工夫します。		プラン6：日常的に「めあて」と「まとめ」のある指導を行います。	評価	プラン7：考える力を高める観点別学習状況の評価を工夫します。	プラン8：日常的に学習の自己評価活動を工夫します。
教材	プラン1：考える力を高める指導内容の焦点化を図ります。													
	プラン2：考える力を高める教材開発の条件を明らかにします。													
単元構成	プラン3：考える力を高める学習問題づくりと基本的な学習過程を工夫します。													
	プラン4：考える力を高める交流活動を工夫します。													
	プラン5：考える力を高める学習形態を工夫します。													
	プラン6：日常的に「めあて」と「まとめ」のある指導を行います。													
評価	プラン7：考える力を高める観点別学習状況の評価を工夫します。													
	プラン8：日常的に学習の自己評価活動を工夫します。													

平成15年度	テーマ 確かな学力を育む教科学習の展開 - 考える力を高める教材開発と指導方法の工夫改善を通して - 研究の見通し(仮説) 国語、社会、数学、理科、英語の各教科において、次のような手だてを講ずれば、考える力が高まり、学力が向上するであろう。 1. 教科の本質からの教材の工夫。 2. 思考力、判断力を重視した単元構成の工夫。 3. 生きて働く知識、技能を図る小テストの実施。 研究の内容・方法
--------	--

前年度に作成した8つの学力向上プランをもとに、各教科においてより具現化した教科の学力向上プランを作成し実践を行う。主に考える力を高める単元構成の充実と観点別学習状況の評価の工夫に取り組む。

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を育む教科学習の展開</p> <p>- 考える力を高める教材開発と指導方法の工夫改善を通して -</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>国語、社会、数学、理科、英語の各教科において、次のような手だてを講ずれば、考える力が高まり、学力が向上するであろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科の本質からの教材の工夫。 2. 思考力、判断力を重視した単元構成の工夫。 3. 生きて働く知識、技能を図る小テストの実施。 <p>研究の内容・方法</p> <p>前年度までに作成した学力向上プランをもとに実践を行う。主に考える力を高める日常的な学びの評価の蓄積を図る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

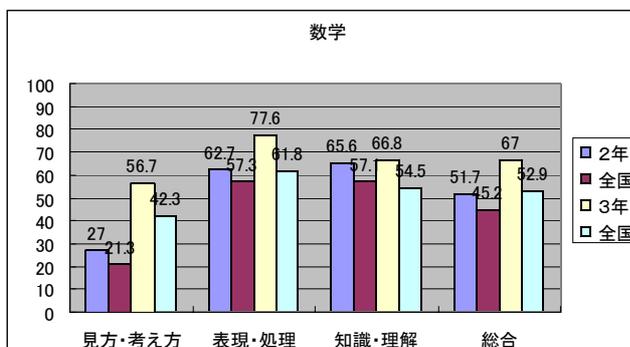


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

【全国版観点別学力分析結果から(平成15年5月実施)】

右のグラフは、昨年5月に2,3学年の国語、社会、数学、理科、英語で実施した学力分析テストの数学の結果である。どの観点も全国平均を上回っており、「確かな学力」が養われていることがわかる。また、他の4教科(国語、社会、理科、英語)においても同様の結果となった。



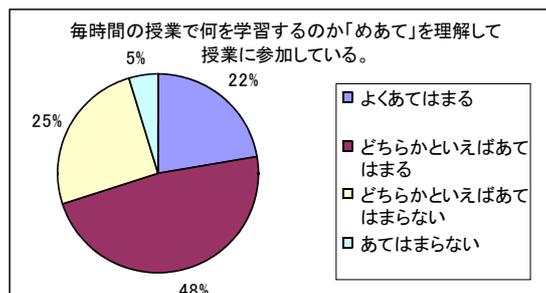
今年度は新たに数学科に指導工夫改善教員が配置され、数学、英語の2教科で少人数授業が行われている。教科部

会の分析によれば、生徒の意欲や理解面において少人数授業は有効であるといえる。

教科における学力向上プランを作成し、教科部会を中心に単元構成の充実を図るなどして授業実践を行ってきた。その結果、これまで以上に教員相互の情報交換が活発になったり、授業の計画段階からお互いにアイデアを出し合い授業を創造したりする姿が多々見られるようになった。

【生徒の学習に関する意識調査から(平成15年10月実施)】

各教科共通して、学習内容や学習方法を明確にした「授業のめあて」を確実に提示し授業を行うことを大切にしてきた。昨年10月に実施した教員のアンケート結果から、全授業のうち80%以上の授業でめあて

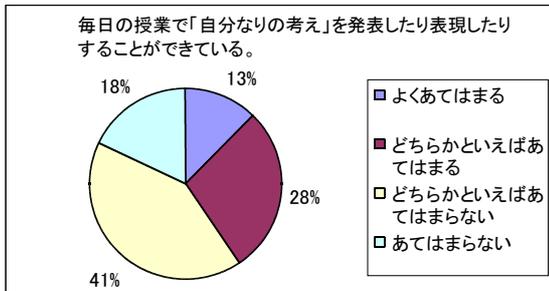


の提示がなされており、一般化がなされていると考える。また、生徒も7割の生徒が授業のめあてを理解し学習活動を行っている。

「勉強の内容がよくわかるか」という問いについては、7割以上の生徒が「よくあてはまる」、又は「どちらかといえばあてはまる」と答えている。全校生徒にとって、概ねわかる授業が実践できていると考える。

2. 今後の課題

昨年5月の学力分析結果から、数学科では「見方・考え方」が低いことがわかる。即ち、本校が焦点化する「考える力」が十分に高まっていないといえる。他の4教科（国語、理科、社会、英語）においても同様の傾向を示しており、今後更に考える力を高めるための実践を充実させなければならない。



科（国語、理科、社会、英語）においても同様の傾向を示しており、今後更に考える力を高めるための実践を充実させなければならない。

生徒の学習に関する意識調査から、「毎日の授業で自分なりの考えを発表したり表現したりすることができているか」という問いについては約6割の生徒が「できていない」と答えている。今後、表現活動等の充実が必要であると考えます。

学力把握のための学校としての取組

- 1 学力分析テストを行い、見える学力として実態を把握している。
 - (1) 定期考査における観点別集計（全学年・通年）
 - (2) 全国版観点別学力分析テストの実施
 - 平成15年5月・・・2年、3年
 - 平成16年2月・・・1年、2年
- 2 学習に関する意識調査を行い、生徒の内面を把握している。（毎学期・各1回）

その他にも全教師に「授業改善に関する意識調査」（アンケート調査）による4段階の自己評価を行い、授業改善の進捗状況を把握するとともに意識化を図っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業と協議会の実施

第1回：7月9日（金曜日）本校にて開催（国語、社会、数学、理科、英語）

第2回：9月22日（月曜日）本校にて開催（国語、社会、数学、理科、英語）

実践交流会

11月10日（月曜日）本校にて開催（全体発表・公開授業・協議会）

研究成果の普及のために冊子を作成し配布。

【参加者に行ったアンケートの集計結果】

項目	1全体説明の内容は理解できたか				2公開授業で学力向上のポイントを見つけることができたか				3教科プランは自校の実践に役立つか				4協議した内容は自校の実践に役立つか			
	1理解できなかった	2あまり理解できなかった	3ほぼ理解できた	4理解できた	1できなかった	2あまりできなかった	3ほぼできた	4できた	1役に立たない	2あまり役に立たない	3まあ役に立つ	4大役に立つ	1役に立たない	2あまり役に立たない	3まあ役に立つ	4大役に立つ
人数	0	1	18	17	1	7	16	14	0	4	23	8	0	1	24	11
平均ポイント	3.4				3.1				3.1				3.3			

講師として他校の校内研修会に参加

8月1日 佐賀県小城市立小城中学校

県外からの研修視察等の受入れ

【実績】 7月14日 愛媛県温泉郡重信町教育委員会（7名）

8月12日 大阪府池田市立池田中学校（1名）

8月19日 鹿児島県日置郡山町教育委員会・校長会（5名）

12月15日 広島県竹原市・豊田郡中学校長会（15名）

12月17日 熊本県天草郡松島町・姫戸町校長会（11名）

【予定】 2月16日 岡山県倉敷市立倉敷南中学校（2名）

2月20日 鹿児島県鹿屋市立鹿屋東中学校（1名）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 ■ 16学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 ■ 国語 ■ 社会 ■ 数学 ■ 理科
 ■ 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 無